

<b>授業科目名</b>	京阪神の地理歴史			<b>担当教員名</b>	中西 雄二	
<b>科目区分</b>		<b>単位</b>	<b>配当年次</b>	<b>実施時期</b>	<b>曜日・時限</b>	<b>形態</b>
教養教育科目	選択	2	1～4	春学期	月・3	講義
<b>授業概要</b>						
<p>京都、大阪、神戸を中核とする京阪神地域の歴史的な成り立ちと現在の地理的な特色について、本学の位置する阪神地区の事象を中心に、その具体的な事例とともに学ぶ。前半では地域の自然環境と人間の生活や文化・歴史との関連を、後半では近代以降の住宅地や工業地帯の形成といった都市化を、それぞれ主題として扱う。なお、授業の際には時代ごとの地形図判読や授業中課題も課す。</p>						
<b>到達目標</b>						
<p>京阪神地域の歴史や地理に関する基礎的な学術的知識の獲得を通して、広く地域文化や歴史的事象と現状との関連性を把握し、説明できるようになることを目標とする。あわせて、地形図や主題図の基本的な読図能力の習得も目指す。</p>						
<b>授業方法(展開)</b>						
<p>扱う事例の把握に向けた授業を、図表・資料の活用を通じた講義形式で進めていく。具体的には、事例の説明と合わせて参考文献の紹介や映像や写真資料など視聴覚資料の提示を行う。ここでは基礎的な知識の習得と社会的テーマに対する思考力の涵養を主要な目的とする。</p>						
<b>関連科目・知識・スキル</b>						
<p>関連科目：日本地域研究。</p>						
<b>成績評価</b>						
<p>(1) 定期試験：60%</p> <p>(2) 平常評価（授業中課題・授業貢献度）：40%</p>						
<b>教科書・参考書など</b>						
<p>「阪神間モダニズム」展実行委員会ほか編『阪神間モダニズム』淡交社、1997。水内俊雄・加藤政洋・大城直樹『モダン都市の系譜』ナカニシヤ出版、2008。ほか、適宜指示する。いずれも購入の必要はない。</p>						
<b>履修上の注意事項</b>						
<p>授業中課題（小レポート・小テストなど）を課す場合もある。</p>						

## 授業の柱(単元)と授業スケジュール

### — 導入 —

- (1) オリエンテーション

### — 京阪神地域の自然と文化 —

- (2) 京阪神地域の地誌的概略：京阪神地域の地形や自然環境、生活や文化に関して概略的に理解する。
- (3) 京都とその周辺の地誌：京都とその周辺についての詳細な地誌的概略を把握する。
- (4) 大阪とその周辺の地誌：大阪とその周辺についての詳細な地誌的概略を把握する。
- (5) 神戸とその周辺の地誌：神戸とその周辺についての詳細な地誌的概略を把握する。
- (6) 自然災害とその影響：自然環境と都市の関連が最も明白に現れる事例として、阪神大水害（1938）と阪神・淡路大震災（1995）を扱い、阪神地区の都市形成に与えた影響について学ぶ。

### — 京阪神地域におけるモダン都市の形成 —

- (7) 京阪神地域と近代化：明治維新以降の都市形成プロセスの特徴について理解する。
- (8) 関西私鉄と都市開発：関西の私鉄各社と京阪神の都市開発や文化振興の関係について理解する。
- (9) 郊外住宅地の形成：京阪神地域の郊外住宅地について、戦前期の阪神地区で多く開発された住宅地と高度経済成長期以降に造成されたニュータウンを事例に学ぶ。
- (10) ～ (11) 京阪神地域と工業化：工業地帯形成と都市ごとの工業化プロセスや特色の違いを把握する。特に阪神工業地帯の事例を中心に扱う。
- (12) ～ (14) 京阪神地域と移民：時代を通して様々な地域から移り住んできた様々な階層の移民の歴史や文化について、複眼的な視点から理解する。具体的な事例としては、在日コリアン、華僑・華人、白系ロシア人、国内移民等を扱う。

### — まとめ —

- (15) 全体のまとめ

## 学生への一言

本講義の主要な目的は具体的な事例や知識の把握にとどまらず、より複眼的なものの方で本学の位置する京阪神地域について捉えることにあります。京阪神地域以外の地域についても一面的な理解ではなく、複眼的思考をもち、歴史的な流れを踏まえて捉える感覚を養うことに本講義を役立ててもらえれば、大変嬉しく思います。